

令和5年度 家庭教育学級リーダー研修会(小学校の部)

北方町立北学園 (旧 北方町立北方小学校・北方西小学校・北方中学校)

実践事例発表

親と子が一緒に学び、育つ家庭教育学級



本日は、家庭教育学級リーダー研修会において、実践発表の機会をいただき、ありがとうございます。

私は、北方町立北学園の子育て委員長 堀と申します。本日の発表にあたっては、昨年度、北方小学校 PTA副会長であった 三宅様にご協力をいただきました。

それでは、「親と子が一緒に学び、育つ家庭教育学級」というテーマで、昨年度の実践をお話させていただきます。



- ◎岐阜県の南西部、岐阜市の西隣、本巣郡唯一の町
- ◎面積は県内市町村の中で最も小さいが、人口密度は最も高い町

まず、初めに、北学園のある北方町の紹介をします。皆さんは、北方町をご存じでしょうか。北方町は、岐阜県の南西部、岐阜市の西隣に位置する、本巣郡唯一の「町」です。町の面積は、県内の市町村の中で最も小さいのですが、人口密度は、最も高い町です。「住みよい街のランキング」において、上位に位置しているそうです。

歴史ある北方町

◎江戸期 商都として栄える

◎円鏡寺、北方城址、東山道、時の太鼓などの
歴史ある建造物や遺構



歴史的に見ると、北方町は、江戸期には、西美濃において、大垣に次いで栄えた商都でした。

北学園の周囲には、円鏡寺、北方城址、東山道、時の太鼓など、歴史的な建造物や遺構があります。

先日、5月3日には、十数台の神輿が各町内から出て、通りを練り歩く「北方祭り」が盛大に行われました。

北学園（義務教育学校）の誕生

◆北方小学校

江戸期に藩校として誕生

明治6年 化成舎 学校を創設

明治9年 北方小学校 誕生

◆北方中学校

昭和22年

学校組合立北方中学校の発足

昭和59年 学校分離により

◆北方西小学校 誕生



令和5年4月 **北方町立北学園** の誕生

この北方町において、今年4月、北方町の3つの小学校と1つの中学校が再編され、2つの義務教育学校が誕生しました。北方町立北学園と南学園です。

北学園の前身は、江戸期に藩校として誕生したことを起源とする「北方小学校」。この北方小学校の児童数増加に伴い、分離する形で、昭和59年に誕生した「北方西小学校」の2つの小学校と「北方中学校」です。北方中学校においては、北方小、北方西小校区の生徒を北学園、北方南小校区の生徒を南学園と分かれることになりました。

北学園に在籍する児童生徒数は、1057人。とても大きな学校になりました。

実践紹介

本日の発表内容

1. 自分で選んで家族と取り組む
在宅家庭教育学級
2. 子どもと共に親も育つための講演会

それでは、これより、実践発表を始めます。繰り返しになりますが、本日の発表は、北学園の前身となる北方小学校における、昨年度までの実践をもとにしています。あらかじめ、ご了承ください。

では、画面にありますように、2つの取組を紹介します。

1つめは、自分で選んで、家族と取り組む「在宅家庭教育学級」の取組

2つめは、子どもと共に、親も育つための講演会の実施です。

取り組み内容紹介①

選択型の在宅取り組み

北方町は一つ 北方の子をみんなで育む

町内4校合同テーマを設定

◎ 学校の思い

「NOメディア」から「賢くメディアを利用する」取り組みにしたい。

◎ 保護者側からの意見

年齢が異なり、生活リズムが合わない。

1つのテーマではなかなか合わない。

→ **各家庭で選べるようにしてはどうか??**

取組内容の紹介①自分で選んで家族と取り組む「選択型の在宅取り組み」

北方町では、「北方町は一つ、北方の子をみんなで育む」という思いで、年に一度、町内の小、中学校が同じテーマを設定して家庭での取組を行っています。

ここ数年は、オンラインゲームの普及による視力低下や寝不足などの健康問題、親子での対話の減少などの課題を受け、町内共通で「NOメディアデー」を一週間ほど設定して取り組んできました。

しかし、町内の全児童生徒にタブレットが配付され、学校や家庭で、タブレットを学習に活用する機会も増えました。それにより、メディア利用を制限するだけでなく、目的に応じてメディアを賢く利用する力を身に付けさせたいという学校の思いや、テーマが一つというのは、子どもの年齢や家庭の実態にそぐわず、難しい面があるという保護者の意見をもとに見直し、昨年度は、各家庭において取組内容を選択することができる在宅型の取組を提案しました。

選択制の取組

3つの中から選択

① 節メディア

② 家のお手伝い

③ 防災

● 後期のスタートとともに実践

期間：令和4年10月17日(月)～10月21日(金)

活動例

① 節メディア

- ・テレビのつけっぱなしをやめる
- ・時代に合った良いメディアの使い方を話し合ってみる



② 家のお手伝い

- ・毎日出入りする玄関を整える
- ・年末に向け大掃除を始める



③ 防災について

- ・防災用品のチェック、ローリングストックの消費、入替え
- ・避難場所や連絡手段の確認



…など自由

☆兄弟で異なる活動を選んだり、複数個取り組んでもよいです。

別紙のアンケートに実施内容と感想を記入し、提出をお願いします。

選択制の取組として挙げたのは、次の3つです。

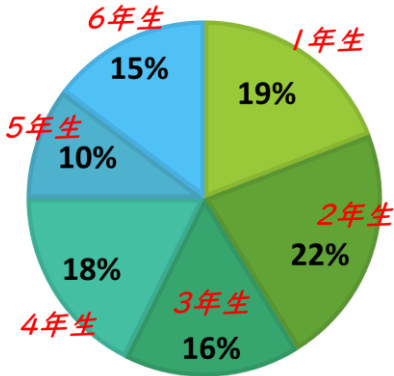
- ①テレビのつけっぱなしをやめる、時間を決めてゲームをするなど「節メディア」に関する取組
- ②玄関掃除や食器洗いなどの「家のお手伝い」に関する取組
- ③防災用品の点検、ローリングストックの消費などといった「防災」に関する取組 　　です。

後期のスタート時期に合わせて、画面右のようなお便りで家庭に周知しました。家庭においては、兄弟で異なる取組を選んだり、複数の取組を実践したりしてもよいこととしました。

各取組における実践人数

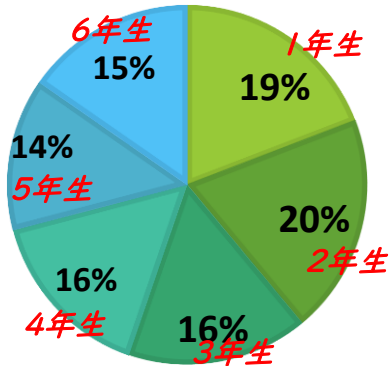
節メディア

68人



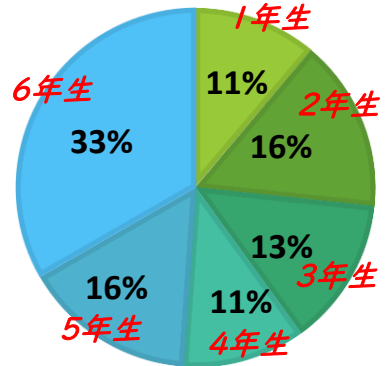
家のお手伝い

313人



防災

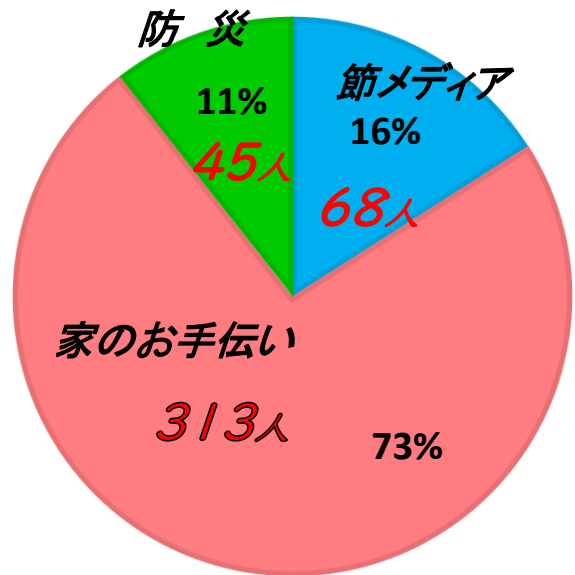
45人



各取組における実践人数は、円グラフに示した通りです。（5秒ぐらいの間）

実践の様子

- ◆ 節メディアの取り組みはどの学年も2割近くの家庭で実践された。
- ◆ 防災の取り組みは高学年が半数を占めた。

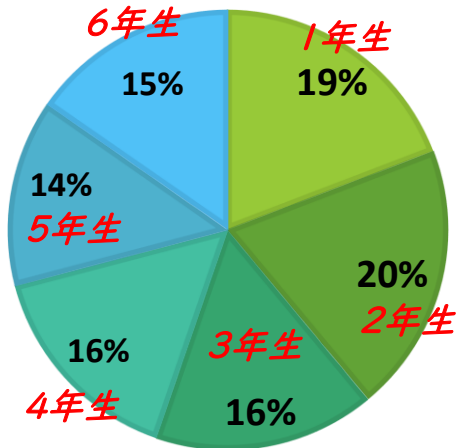


3つの取組において、最も多く実践されたのは、「家のお手伝い」で313人でした。これは、全体の7割を占めました。その背景には、取り組みやすさがあると考えられます。

「節メディア」の取組を実践したのは68人。どの学年も、2割近くの家庭で実践されました。

「防災」の取組を実践したのは45人でした。取り組んだのは高学年児童の家庭が半数を占めていました。命を守ることへの関心の高さがうかがえました。

取り組み後の感想



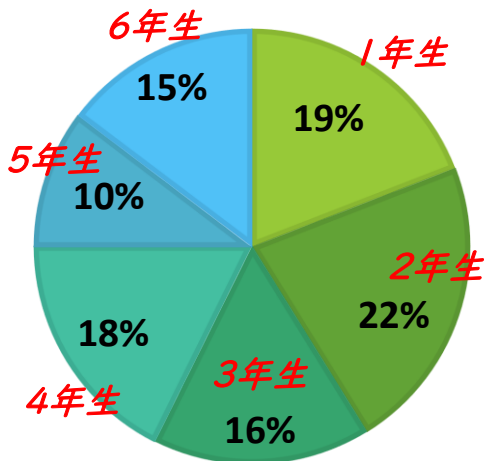
家のお手伝い

- (皿洗い)は毎日のことなので助かった。ありがとう!
- 靴を揃えるだけで、こんなに気持ちよくなるとは。続けたい。
- お母さんは大変だなと思った。
- 家族のためになることは、自分のためにもなること。これからもよろしく。
- 手が荒れてしまった。毎日やってくれているお母さん、ありがとう。
- 小さなお手伝いでも、自信がついたようでよかった。

続いて、各取組における、児童や保護者の感想を紹介します。画面をご覧ください。

「家のお手伝い」の取組は、どの学年も同じような割合で取り組まれました。子どもからは、「毎日やり続けているお母さんは大変だな。ありがとう。」という感謝の言葉や、取り組んでみて、「自分でもできることがあることに気付き、これからもやりたい」という思いを伝える言葉が見られました。

取り組み後の感想

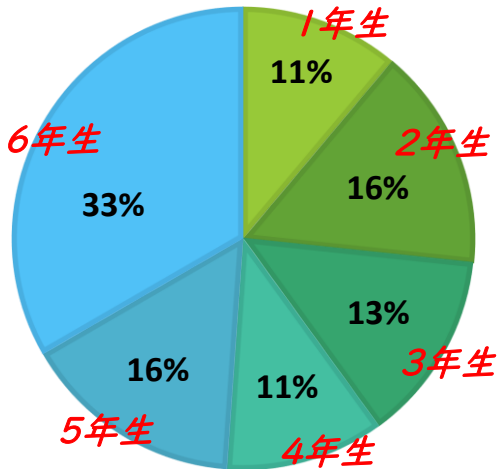


節メディア

- 家族内で声を掛け合うことができた。
- 「節電」を特に意識することができた。
- 子どもが「来月もやる!(ゲーム時間減)」と宣言してくれた。
- 朝食を食べ終わるまでラジオを聞くようにしたら、食も進み、会話も増えた。
- テレビを見ながらの食事を止めたら、食事ができることに感謝し、残さず食べてくれた。
- 毎日の習慣は、すぐには抜けづらかた。
- アプリを使って、時間管理をしたらうまくいった。

「節メディア」の取組は、低、中学年児童の家庭における取組が4分の3を占めました。保護者からは、「テレビを見ながらの食事を止めたら、残さずに食べてくれた。」「節電を意識することができた。」などの感想がありました。メディアとの関わり方を見直し、家族と触れ合うことや、生活リズムを整えることへの意識を高める機会になりました。

取り組み後の感想



防 災

- 自治会でも防災の話があり、家族で話し合った。
- 後日、子どもに避難場所をクイズの形で出して確認した。
- ローリングストックを見直すよい機会になった。
- 子どもが自ら防災かばんの中身をチェックし、使い方も覚えた。
- 住んでいる地域に必要な防災グッズは何かを考えた。
- 下宿などで離れて住んでいる兄弟にも防災点検をするように声をかけた。
- ペットと一緒に避難できるように、テントを組み立ててみた。キャンプみたいで楽しかった。

「防災」の取組は、先ほどお伝えしたように、高学年の児童家庭における取組が約半数に上りました。子どもと一緒に防災グッズの点検を行ったことや、避難場所の確認をしたなどの声があり、家庭における防災意識を高めることにつながったようです。

このように、選択型の取組を実践したことにより、それぞれの家庭の実態に合わせて、必要なことは何かを親子で相談して決めて取り組むという、主体的な取組ができました。そこに、親子のふれあいや話し合いが生まれたことや、ちょっとほっこりとした時間をもつことができました。

取り組み内容紹介②

講演会

**多感な時期の子どもたちと、
共に成長することを目指した講演会の実施**

平成31年度

「ありのままの我が子を受け入れるための親の学び」

岐阜協立大学 看護学部講師 **戸村 佳美** 先生

令和元年度

「子どもたちの困り感を一緒に考えよう」

瑞穂市教育委員会幼児支援課(当時) **武内 由美** 先生

取り組み内容紹介②「多感な時期の子どもたちと、共に成長することを目指した講演会の実施」です。

毎年、講師をお招きして、子どもたちとともに、親である私たち自身の成長を目指した講演会を開いていました。地域の方にも聞いていただけるようにして、家庭と地域とが一緒になって子育てについて考える機会としていました。

しかし、新型コロナウイルスの感染拡大により、ここ数年は多くの人が集まる講演会の実施は中断しています。コロナ以前に行った講演会について紹介します。

平成31年度

「ありのままの我が子を受け入れるための親の学び」

岐阜協立大学 看護学部講師 戸村 佳美 先生

思春期の性について

- ◆ 子どもの思春期に直面した親の戸惑い
- ◆ 命の誕生のすばらしさ
- ◆ 家庭で得られる安心感と心のバランスの重要性
- ◆ 家庭の存在の大切さ
- ◆ 次の世代の家庭を安定させるためのよい連鎖を

一つ目の講演会は、「思春期の性」をテーマに、講師をお招きして行いました。「性」の問題について、親としてどのように我が子に向き合っていくかを考えるとともに、「家庭」が果たす役割について学ぶ機会になりました。

参加された方の声

- 思春期の到来は当たり前だが、直面すると戸惑う。
- 性教育は命の誕生に関わっていて、とても大事なこと。
- 干渉しすぎてもいけないし、本人に任せすぎるのもよくない。
- 家庭での居場所づくりが重要。

講演会に参加された保護者の声です。

いずれその時がくると分かっているけど、いざ、直面すると戸惑うという思い、性は命の誕生に関わることでもあり、慎重に、そして大切に向き合わなくてはならないという親としての責任感。参加された保護者の皆さんにとって、有意義な時間になったようです。

令和元年度

「子どもたちの困り感を一緒に考えよう」

瑞穂市教育委員会幼児支援課(当時) 武内 由美 先生

「困り感・障がい・療育」について

- ◆ 療育の根底『汝ら、この小さき者の一人をも慎みて侮るなかれ』
- ◆ 発達障がいのある子どもへのサポートの仕方「明確に」「発想の転換」
- ◆ 「こだわり」=それがないと「不安」ではなく、それがあると「安心」
- ◆ 小さな行動でも、見通しを明確にすると、親も子も安心できる。
- ◆ 「消える言葉」より「残る視覚」

2つ目の講演会は「発達障がい」をテーマに、講師をお招きして行いました。どのような困り感をもちながら生活をしているのかについて知るとともに、誰もが安心して過ごすことのできる社会を築くために何ができるのかを学びました。

参加された方の声

- 子どもや弱い立場にいる人を敬う気持ちと誠意をもって接したい。
- 子どもの困っている行動は、子どもがそこに留まっているということ。
- 「こだわり=安心すること」に気付けた。
- ゆとりをもって子どもに接したい。

参加された保護者の声です。

「ゆとりをもって子どもに接したい。」という感想がありますが、子どもの心の安定には、保護者が心にゆとりをもって接することが何よりも大切です。分かってはいても、私たち保護者も、家庭や職場で、日々、さまざまな思いをもちながら過ごしています。思うようにならないこともあります。ちょっと立ち止まって、子どもとの向き合い方について、自分を振り返る機会になりました。

このような講演会の開催は、親としての在り方を見つめなおし、これからの子育てを見通すきっかけになります。今後も、保護者が自らの成長のために学ぶ機会として位置付け、開催していきたいと思います。

これからの取り組み

1年生から9年生までの児童生徒が集う学園

- ☆ 親子がふれあい、楽しく取り組むことで家族の絆を深めることに重点を置く。
- ☆ 1～9年生の発達段階を踏まえた取組内容の検討及び取組方法の工夫
- ☆ 各家庭のよりよい取組を広める。

北方の子を、家庭・学校・地域で育てる

終わりにあたり、これからの家庭教育学級の実践として、北学園が描いていることをまとめます。

北学園は、1～9年生までの児童生徒が集う大きな学校です。体の大きさも心の成長も異なる子どもたちと、その子どもたちを育てる多くの家庭があります。

そこで、今後の実践においては、次の3点を大切にしていきたいと思えます。

- ①親子がふれあい、楽しく取り組むことで、家族の絆が深まるような実践を考えること。
- ②子どもたちの発達段階を踏まえた実践内容を検討したり、実践の方法を工夫したりすること。
- ③各家庭におけるよりよい実践を広めること。 です。

これらを通して、北方の子を、家庭、学校、地域で育てていきたいと思えます。

これで発表を終わります。ご清聴、ありがとうございました。